

平成30年 3 月期第 2 四半期 決算説明資料

株式会社ユビキタス

代表取締役社長 佐野勝大

2017年11月14日

© 2017 Ubiquitous Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous makes no warranties, express or implied, in this summary.



Agenda

- 第2四半期業績の概要
- 通期の業績予想の修正について
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第2四半期 業績の概要

第2四半期（累計期間）概況

業績：計画を上回り進捗（特に損益面）

- 売上高 連結 1,144百万円（前期同期比120.8%増）
 個別 351百万円（前期同期比6.5%増）
- 営業利益 連結 △30百万円（前期同期 △176百万円）
 個別 △1百万円（前期同期 △167百万円）

セグメント別概況

- コネクティビティ事業：
受注済みの受託開発案件による収益、既存顧客等からのロイヤルティ売上獲得
- 組み込みソフトウェア事業：
車載機器を中心とした既存顧客からのロイヤルティ売上獲得
- ソフトウェアサービス事業：計画を上回り進捗
- ソフトウェアディストリビューション事業：計画に比し売上微減、経常利益は増加
エーアイコーポレーション社との共同開発製品の販売等シナジー創出施策を継続

損益計算書

単位：百万円

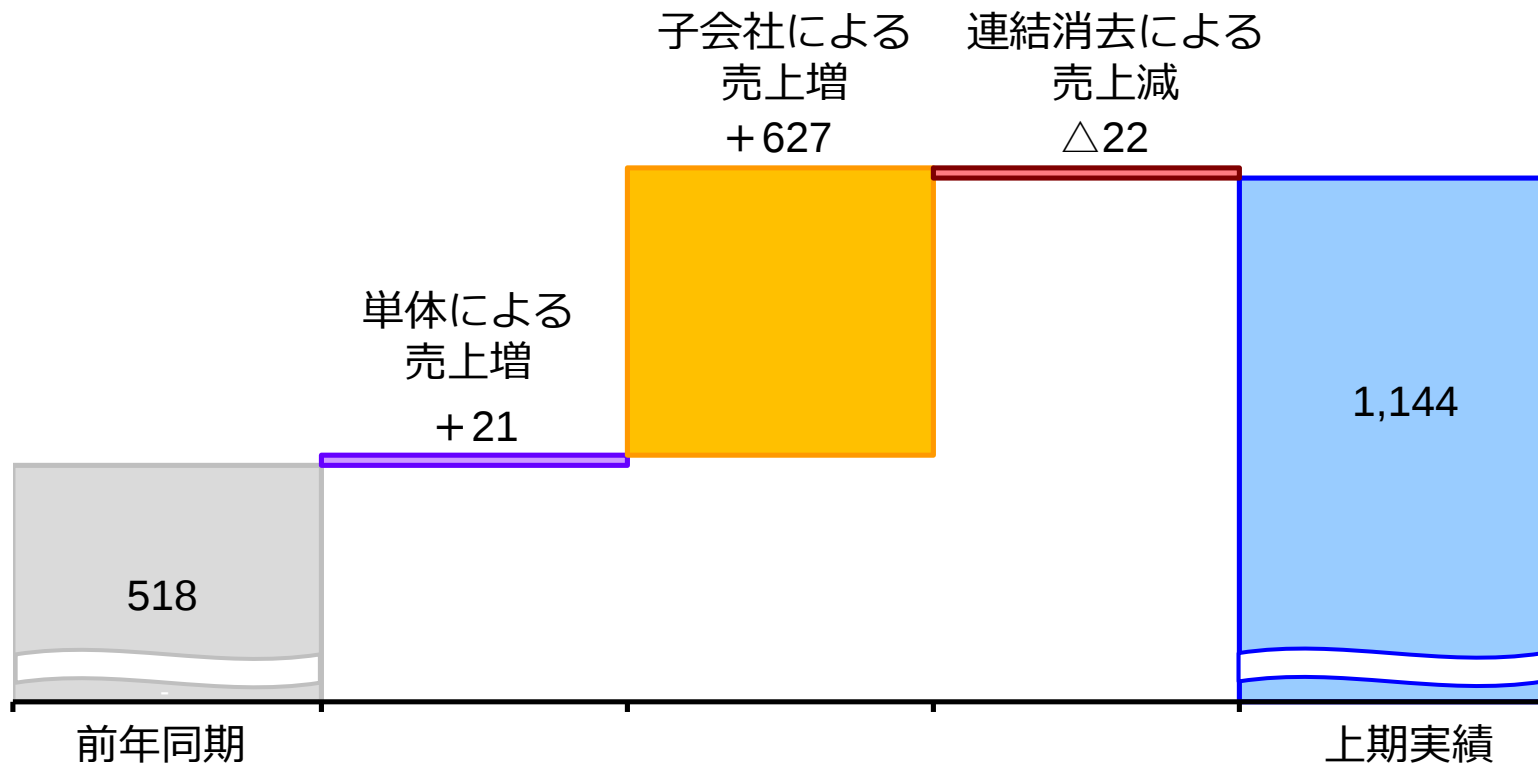
	連結		
	前年同期	H30/3期 第2四半期	増減
売上高	518	1,144	626
売上原価	276	587	311
売上総利益	242	556	314
販管費	418	587	168
営業利益	△ 176	△ 30	145
営業外損益	△ 0	38	39
経常利益	△ 177	8	185
特別損益	△ 2	△ 0	1
法人税等	16	49	32
四半期利益	△ 196	△ 42	154

個別		
前年同期	H30/3期 第2四半期	増減
330	351	21
167	147	△ 19
162	203	41
329	205	△ 124
△ 167	△ 1	165
6	0	△ 5
△ 160	△ 0	159
△ 0	△ 0	0
1	1	△ 0
△ 162	△ 2	160

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

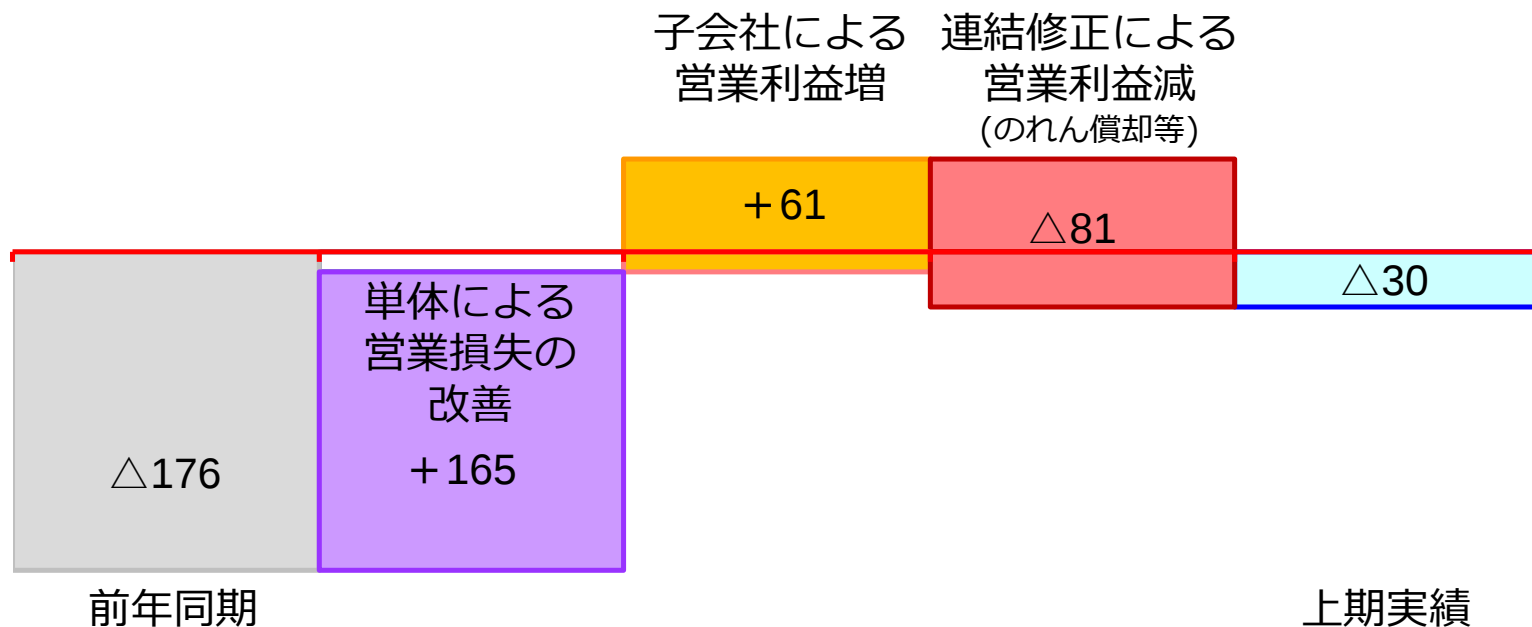
前期比増減：売上高

単位：百万円



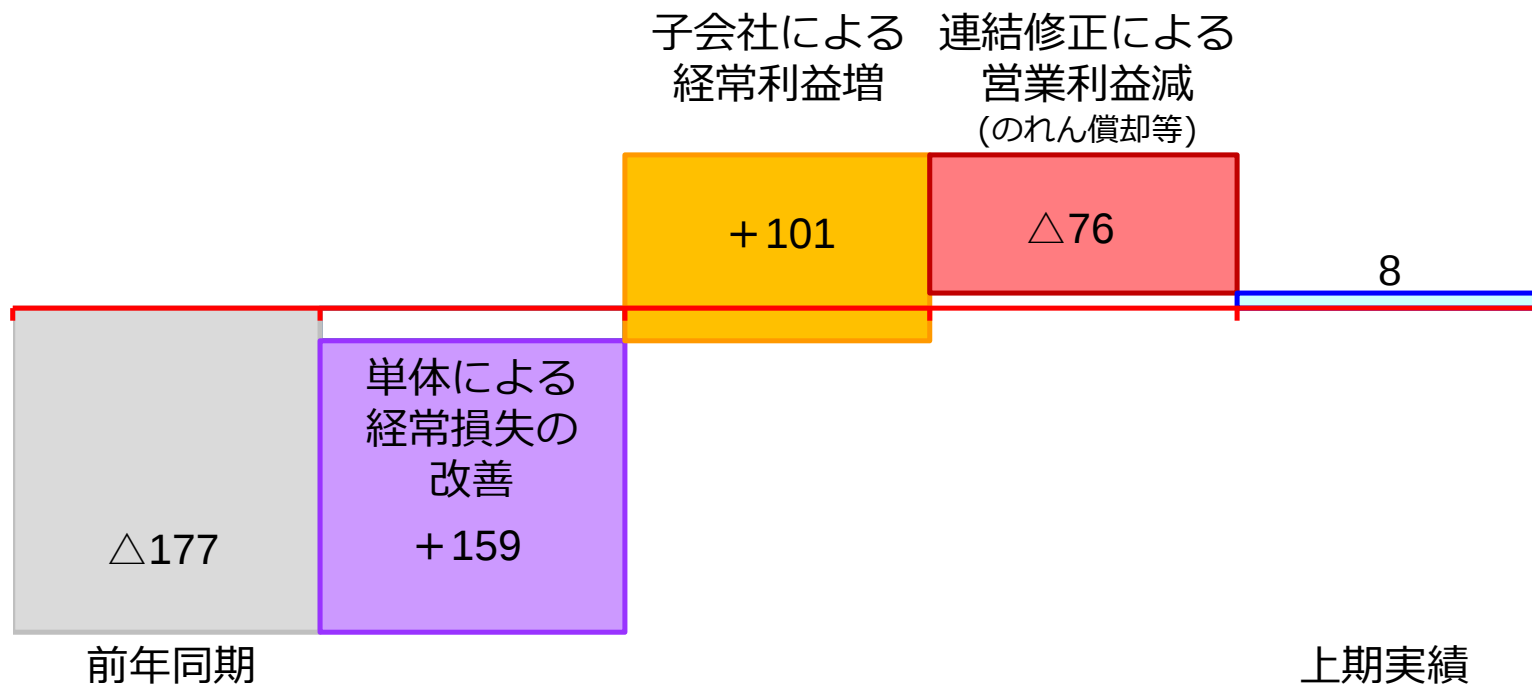
前期比増減：営業利益

単位：百万円



前期比増減：経常利益

単位：百万円



貸借対照表（資産の部）

単位：百万円

	連結		
	前年同期	H30/3期 第2四半期	増減
現金・預金	2,032	1,130	△ 901
売掛金	218	414	196
有価証券	-	199	199
その他流動資産	48	143	95
流動資産	2,299	1,888	△ 410
関係・子会社株式	-	10	10
のれん	415	841	426
その他固定資産	185	364	179
固定資産	601	1,216	615
資産合計	2,900	3,105	205

	個別		
	前年同期	H30/3期 第2四半期	増減
	1,826	627	△ 1,198
	144	152	8
	-	199	199
	40	51	10
	2,011	1,032	△ 979
	720	1,513	793
	-	-	-
	166	268	102
	886	1,782	896
	2,898	2,815	△ 82

貸借対照表（負債・純資産の部）

単位：百万円

	連結		
	前年同期	H30/3期 第2四半期	増減
買掛金	13	98	85
未払金	76	70	△ 5
前受金	32	95	62
その他流動負債	80	121	40
流動負債	202	384	182
固定負債	39	94	54
資本金	1,466	1,470	4
資本剰余金	1,436	1,440	4
利益剰余金	△ 289	△ 331	△ 42
その他純資産	45	46	0
純資産	2,658	2,626	△ 32
負債・純資産合計	2,900	3,105	205

	個別		
	前年同期	H30/3期 第2四半期	増減
	30	15	△ 14
	70	16	△ 53
	31	13	△ 18
	34	30	△ 4
	167	76	△ 90
	29	30	1
	1,466	1,470	4
	1,436	1,440	4
	△ 245	△ 248	△ 2
	44	44	0
	2,701	2,707	6
	2,898	2,815	△ 82

通期の 業績予想修正

通期 業績予想の修正 (連結)

	前回予想(A) (百万円)	今回修正(B) (百万円)	増減額(B-A)
売上高	2,470	2,390	△80
営業利益	△20	△28	△8
経常利益	△20	12	32
純利益	△93	△81	12

■ 変動要因

- ・ 組込みソフトウェア事業のうち、高速起動関連の新規顧客の獲得等が想定を下回る見込みであること
- ・ ソフトウェアディストリビューション事業の第2四半期累計期間における営業外収益の計上の影響
- ・ ソフトウェアディストリビューション事業において人件費が計画を下回る見込みであること
- ・ その他グループ全体での諸経費削減による効果、等

通期 業績予想の修正 (個別)

	前回予想(A) (百万円)	今回修正(B) (百万円)	増減額(B-A)
売 上 高	800	760	△40
営 業 利 益	5	6	1
経 常 利 益	5	7	2
純 利 益	2	0	△2

■ 変動要因

- ・ 売上全体に占めるロイヤルティ売上の割合が計画より大きいこと
- ・ 組込みソフトウェア事業のうち、高速起動関連の新規顧客の獲得等が想定を下回る見込みであること
- ・ 外注費など諸経費の削減効果

通期業績予想（連結）に対する進捗

単位：百万円

	修正（11/9） 通期業績予想	第2四半期 実績	進捗率 （%）
売上高	2,390	1,144	47.9
営業利益	△28	△30	—
経常利益	12	8	—
純利益	△81	△42	—

通期業績予想（個別）に対する進捗

単位：百万円

	修正（11/9） 通期業績予想	第2四半期 実績	進捗率 （%）
売上高	760	351	46.2
営業利益	6	△1	—
経常利益	7	△0	—
純利益	0	△2	—

セグメント及び製品分野別 動向と取り組み

セグメント及び製品分野別の売上高進捗

単位：百万円

セグメント	分野	前年同期 (連結)	H30/3期 第2四半期 (連結)	増減率
コネクティビティ事業		※174	171	△1.4%
組込みソフトウェア 事業	デ ー タ ベ ー ス	56	56	△0.6%
	高 速 起 動	99	123	24.6%
	小 計	155	179	15.5%
ソフトウェアサービス事業		188	179	△5.0%
ソフトウェア ディストリビューション事業		—	613	—

※前期までの製品分野の「組込みネットワーク分野」及び「サービス&ソリューション分野」の売上高の合計値を表示しております。

セグメント別売上及び利益

単位：百万円

		前 年 同 期 (連 結)	H30/3期 第2四半期 (連 結)	増 減 額
コネクティビティ事業	売 上 高	※1174	171	△2
	セ グ メ ン ト 利 益	△187	△ 53	134
組込みソフトウェア事業	売 上 高	155	179	24
	セ グ メ ン ト 利 益	20	51	30
ソフトウェアサービス事業	売 上 高	188	179	△9
	セ グ メ ン ト 利 益	※2△14	※2△ 1	12
ソフトウェア ディストリビューション事業	売 上 高	—	613	—
	セ グ メ ン ト 利 益	—	※3△ 4	—

※1 前期までの製品分野の「組込みネットワーク分野」及び「サービス&ソリューション分野」の売上高の合計値を表示しております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 51百万円を含めております。

※3 株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 53百万円を含めております。

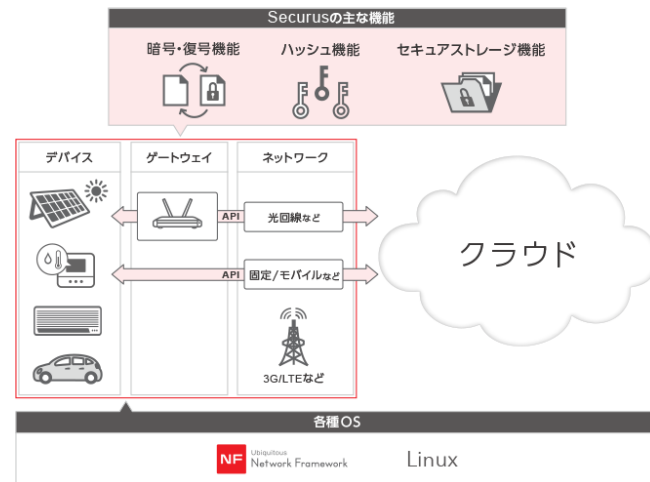
コネクティビティ事業

■ 当四半期概況

- スマートエネルギー(電力、ガス)関連案件で「Ubiquitous Network Framework」「Ubiquitous Wi-SMART」に関する受託開発等の収益を獲得
- 車載機器関連案件で「Ubiquitous Securus」契約時一時金、「Ubiquitous Miracast™ SDK」関連の追加ロイヤルティ等の収益を獲得

■ 取り組み方向性

- 車載機器、産業/OA機器などのIoT向けセキュリティ製品のソリューション販売を強化
- エーアイコーポレーション社との共同開発製品「ComboConnect」の販売継続
- 村田製作所社を含めた半導体メーカー複数社との協業推進を継続



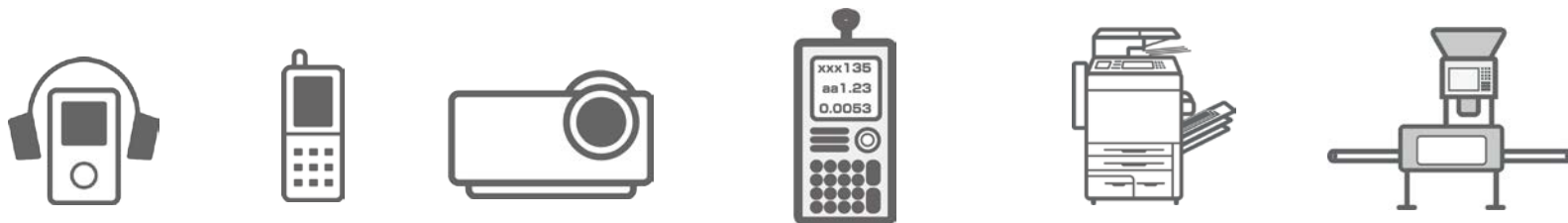
データベース関連

■ 当四半期概況

- 既存顧客より安定したロイヤルティ収益等を獲得
 - 車載、産業機器等の既存顧客を中心に

■ 取り組み方向性

- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販
- IoT機器の分散データ処理の可能性検討



組込みソフトウェア事業 高速起動関連



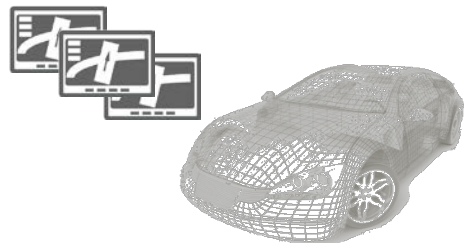
■ 当四半期概況

- 累計ライセンス数**1,300万本突破!**(2017年8月末現在)
- 車載機器（カーナビ）関連中心に拡販中
 - ・ 既存顧客の製品出荷好調、新規採用量産スタートによりロイヤルティ収益が拡大
 - ・ カーナビ各社の多数に浸透、新規横展開獲得含め、製品化に向けた開発、評価が進行中
 - ・ 海外展開、一般消費者向けデジタル機器案件の評価等対応
- 新規顧客獲得は、OA機器、産業機器等で一定の進捗も、計画を下回る



■ 取り組み方向性

- 最新版「Ubiquitous QuickBoot R2.0」を発表、機能・性能強化を実現、「Lite / Pro / Automotive」の用途に応じた3種の開発キットをラインアップ、潜在顧客範囲を拡大し拡販注力
- インテル社のx 86アーキテクチャベースのCPU Atomプロセッサに対応、組込み向けCPUでシェアの高い2つのアーキテクチャ対応で更なる拡販対象・潜在顧客範囲を拡大



ソフトウェアサービス事業



■ 当四半期概況

- 既存顧客との取引を堅実に実行し収益を確保
 - 車載機器分野を中心とした各種ソフトウェアの開発受託
 - 車載機器向けの「YOMI」データコンテンツに関するライセンス使用料売上が堅調

■ 取り組み方向性

- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的な確保と、協業提案による新たな取り組み
- 既存顧客・パートナー案件に加え、グループ各社の製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現
- 辞書データを活用し正確で統一のとれたデータ環境を実現するサービス「Word Cleanser」の提供を開始

■ 当四半期概況

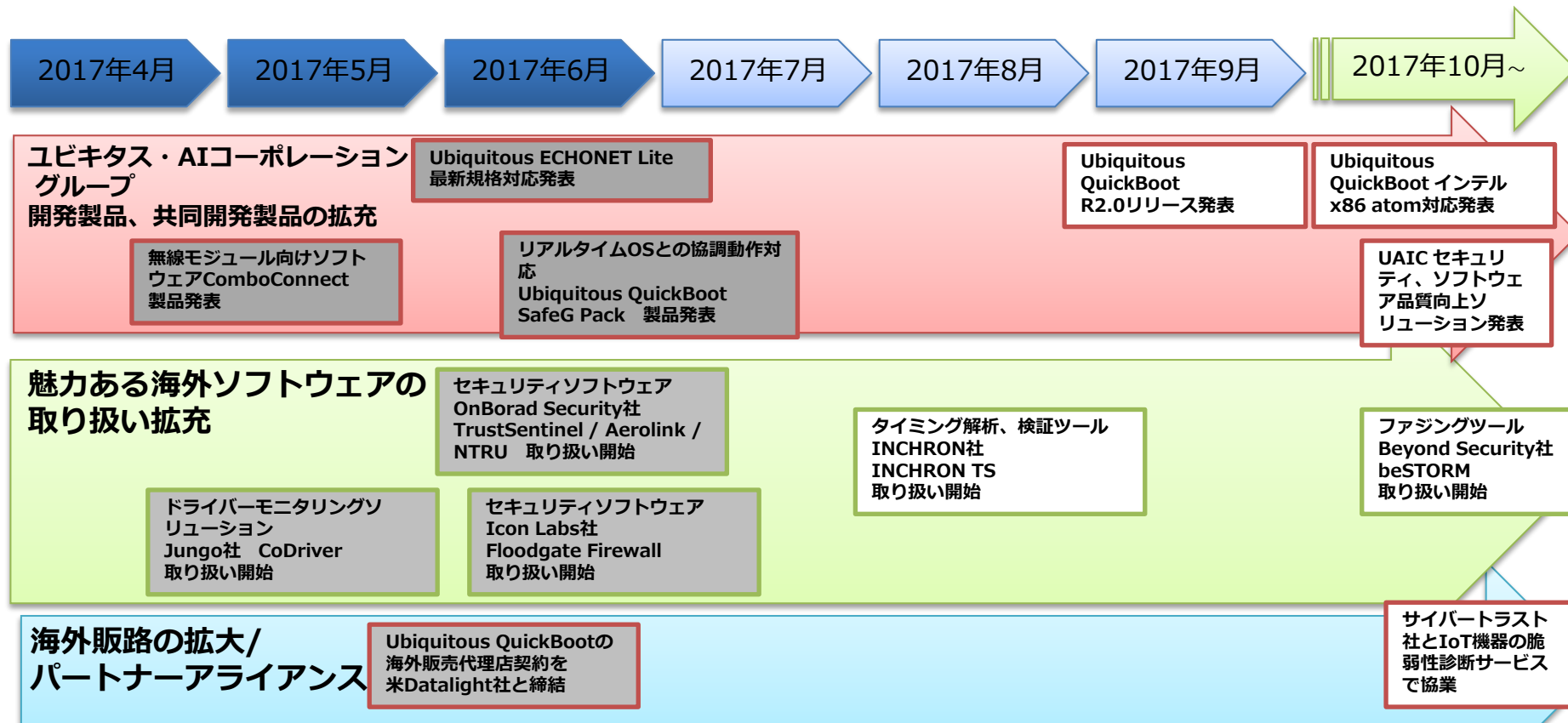
- ワイヤレス製品
 - 車載機器等の既存顧客からBluetooth開発製品「Blue SDK」のロイヤルティ収益獲得
 - 既存顧客との商流変更により一時金、営業外収益（受取補償金）を計上
- ソフトウェア品質向上支援ツール製品
 - 車載機器等の新規・既存顧客から静的解析ツール「Code Sonar」及び仮想ECUソフト「Silver」の年間ライセンス収益を獲得
- BIOS製品
 - 既存 PC OEM顧客から「Insyde H2O」のロイヤルティ収益等獲得
- その他
 - 多数の取り扱い製品より、既存、新規顧客からのロイヤルティ収益等獲得

■ 取り組み方向性

- 100種を超える取扱製品、海外パートナーとのリレーションを活用したコネクティビティ・組込みソフトウェア事業とのシナジー創出施策を実施(拡販面、製品企画/開発面とも)
- 当四半期 新規取扱開始製品
 - 8月、リアルタイムシステム向けタイミング解析、検証ツール：「INCHRON TS」(ドイツ INCHRON 社)
- 年間利用ライセンス契約により収益安定化につながる品質向上支援等のツール製品を重点的に販売を促進
 - 10月、サイバーセキュリティ対策用ファジングツール：「beSTORM」(米 Beyond Security社)

トピックス

グループ商材と商流の充実による収益化の加速



ソフトウェアディストリビューション事業

当期取扱開始製品一覧

	社名	取扱製品名	[製品適用分野] ・ 製品概要
第1四半期	Jungo Connectivity社 (イスラエル)	•CoDriver	[自動車：セーフティ] •ADAS用ドライバーモニタリングソフトウェア
	OnBoard Security社 (アメリカ)	1.TrustSentiel 2.0 2.Aerolink 3.NTRU	[IoT全般/自動車：セキュリティ] 1. TPM2.0対応TSS23.0ソフトウェアスタック 2. V2X向けIEEE1609.2セキュア通信スタック 3. 量子コンピューター対応暗号アルゴリズム
	Icon Labs社 (アメリカ)	•Floodgate Firewall	[IoT全般/自動車：セキュリティ] •組み込みシステム向け軽量ファイアウォール
第2四半期	INCHRON社 (ドイツ)	•INCHRON TS	[自動車 / 産業機器：品質向上支援・セキュリティ] •リアルタイムシステム向けタイミング解析、検証ツール
第3四半期	Beyond Security社 (アメリカ)	•beSTORM	[IoT全般/自動車：セキュリティ] •ファジングツール

グループ化開始から約半年で、5社から7製品の新たな最先端かつユニークな製品の国内販売代理権を獲得！

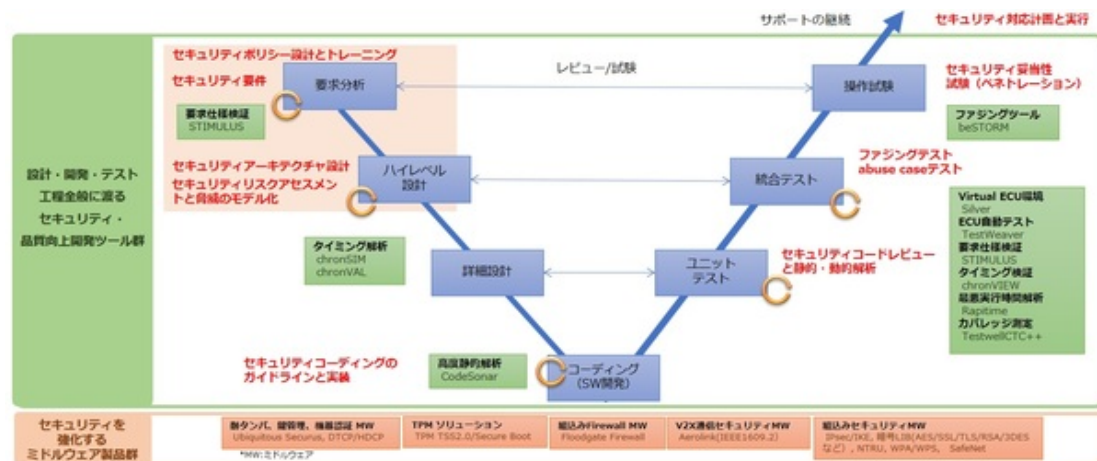
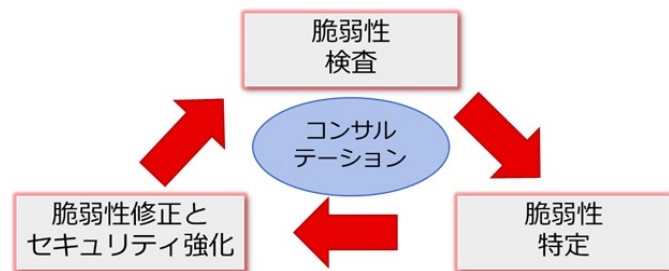
Ubiquitous QuickBootに関する取り組み

- 9月12日 最新版「Ubiquitous QuickBoot R2.0」を発売
 - 新技術対応により、従来比で約40%の高速化を実現
 - Lite Editionの提供：柔軟な機能提供によるお求めやすい価格帯をご用意、より広範な機器への採用拡大
- 10月18日 Intel x86 CPUアーキテクチャAtomプロセッサへの対応
 - 各種産業機器、OA機器、高機能IoT機器などに採用実績の高いインテル最新CPUへの対応
 - より広範囲の機器での採用を目指す



IoTセキュリティ対策関連ソリューション

- 10月より当社グループで、IoT機器のセキュリティ対策とソフトウェア品質向上を実現する製品群と技術サービスを統合した事業を開始
- サイバートラスト社とIoT機器向けの脆弱性診断サービスの協業を開始



Appendix

セグメント変更について（参考）

第1四半期より、以下のセグメントの追加・変更を実施いたしました。

- サービス&ソリューション事業（一部）の事業譲渡に伴い、**コネクティビティ事業の製品分野の区分を廃止**
- 株式会社エーアイコーポレーションの連結子会社化により、同社の事業に関するセグメントとして新たに「**ソフトウェアディストリビューション事業**」セグメントを追加
 - ソフトウェア ディストリビューション事業：海外ソフトウェア製品の輸入・販売・技術サポートを中心とした事業（一部ユビキタス製品の海外販売代理、自社製品ベースでの開発受託も含む）

■旧セグメント

セグメント	分野
コネクティビティ事業	組込みネットワーク関連
	サービス&ソリューション関連
組込みソフトウェア事業	データベース関連
	高速起動関連
ソフトウェアサービス事業	



■新セグメント

セグメント	分野
コネクティビティ事業	
組込みソフトウェア事業	データベース関連
	高速起動関連
ソフトウェアサービス事業	
ソフトウェアディストリビューション事業	

平成30年 3 月期 第 2 四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第2四半期	8月15日	■[グループ企業情報]エーアイコーポレーション社、ドイツ INCHRON社と代理店契約を締結、リアルタイムシステム向けタイミング解析、検証ツール『INCHRON TS』の販売を開始
	9月12日	■「Ubiquitous ECHONET Lite SDK」バージョンアップ～最新の「ECHONET Lite機器オブジェクト詳細規定 Release J」にいち早く対応～
	9月12日	■ユビキタス社、Linux / Android高速起動ソリューションの最新版「Ubiquitous QuickBoot R2.0」を発売～最新技術への対応による超高速化と新しい3つのエディションで多様なニーズに対応～
第3四半期 (参考)	10月11日	■[グループ企業情報]エイム社、『Word Cleanser』を提供開始～辞書データを活用し正確で統一の取れたデータ環境を実現～
	10月18日	■ユビキタス社、Linux/Android高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot」をx86アーキテクチャに対応～Intel Atom® プロセッサへの対応で、より幅広いIoT機器、アプリケーションで採用拡大～
	10月20日	■ユビキタス・AIコーポレーション グループ、米国 Beyond Security 社と日本総代理店契約を締結、ファジングツール『beSTORM』の販売を開始
	10月23日	■Key Reinstallation Attacks(WPA/WPA2の脆弱性)に対する当社製品の対応状況について
	10月24日	■ユビキタス・AIコーポレーション グループ、IoT機器のサイバーセキュリティ対策とソフトウェア品質向上を実現する製品群と技術サービスを統合した事業を開始～要求仕様検討から出荷後のサポートまで、25種以上の幅広いツール、ミドルウェアと技術サービスの提供で開発プロセス全般をカバー～

平成30年 3 月期 第 2 四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第3四半期 (参考)	10月24日	■サイバートラストとユビキタス、IoT機器向けの脆弱性診断サービスにおける協業を開始～IoT機器自体のサイバーセキュリティ確保を推進～

平成30年 3 月期 第 2 四半期 開示一覧

開示日		適時開示
第3四半期 (参考)	11月9日	■ (訂正・数値データ訂正) 「平成30年3月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正に関するお知らせ
	11月9日	■ 平成30年3月期 第 2 四半期累計期間及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

質疑応答概要

【Q1】

上期で単体の損益の改善がだいぶ進んだと思うが、決算説明資料P8の単体による経常利益増の金額159百万円のうち、IoTプラットフォーム事業から撤退したことによる効果はどの程度か？

【A1】

約1億円となります。

【Q2】

エーアイコーポレーション社の既存顧客との商流変更による一時金が、売上ではなく営業外収益の受取補償金で36百万円計上されているが、下期以降にも継続的に、同様の収益が計上されるのか？

【A2】

海外ベンダーの製品をエーアイコーポレーション社から特定の顧客に販売していた取引が、海外ベンダーと当該顧客との直接取引に変わったことに伴い生じた一時金のため、一度限りの収益となります。

また、当該顧客に対して当該海外ベンダー製品をエーアイコーポレーション社から今後は販売することはありませんが、サポート取引は継続する可能性はあります。なお、上期においてはサポート売上を計上しております。

その他の顧客については引き続き商流を保持しているため、現時点において影響はありません。

【Q3】

決算説明資料P24の「取り組みの方向性」について、エーアイコーポレーション社とのシナジー創出に関する取り組みをされているが、スタートした段階であり上期の業績には影響していないという理解でよいか？

【A3】

上期の業績には特段影響していませんが、いくつかのお客様で、上期に発表した両社の共同開発製品に関し商談が進んでいる案件もありますので、通期または来期には収益貢献する案件もあるものと考えております。

質疑応答概要

【Q4】

決算説明資料P27の「当期取扱開始製品一覧」では自動運転関連のものが結構あるが、今後の収益貢献の見込みはどうか？

【A4】

自動車の開発サイクルは3～5年間であるため、取り扱いを開始した製品については、しばらくは開発時の開発ライセンス料やカスタマイズ料が発生するくらいであり、量産時のロイヤルティは2020年以降に発生するものとなります。

自動運転関連以外にも、たとえば、Icon Labs社の「Floodgate firewall」は、組込みIoT関係に有効なファイヤーウォールであります。このようなIoT製品全般については自動車に比較し、短期的な収益貢献が期待できます。

INCRON社のリアルタイムシステム向けタイミング解析ツール「INCHRON TS」は自動車がメインターゲットとなりますが、自動車以外にもたとえば、産業機器でも十分採用頂ける可能性があります。

このように、収益獲得まで時間がかかるものと、比較的短期に収益獲得できるものとポートフォリオを組んで進めてまいります。



Ubiquitous

株式会社ユビキタス Ubiquitous Corporation

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-21-1 明宝ビル6F TEL : 03-5908-3451 FAX : 03-5908-3452